会議要旨

【開催概要】

会議名称	令和５年度　第１回富田林市子ども・子育て会議
開催日時	令和５年１１月２２日（水）15：00～16：30
開催場所	市役所３階　庁議室
出席委員 （名簿順表記）	・井上委員（会長）・峯委員・吉田委員・福田委員・太田委員 ・塩野委員・山下委員・大道委員・竹田委員・森委員・廣崎委員 ・岩井委員・岡野委員・松田委員 （計 14 名）
欠席委員	・恒川委員・北谷委員・北代委員・西井委員
事務局	こども未来室：寺元室長（子育て福祉部付部長）、辻野次長、 小島課長、森参事、谷田課長代理、大堀課長代理、廣谷、佐藤
会議次第	１．開会 ２．委員および事務局自己紹介 ３．会長および副会長選出 ４．会議の公開および会議記録の作成について ５．案件 （１）第２期富田林市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況等について （２）第３期富田林市子ども・子育て支援事業計画の策定について ６．その他 ７．閉会
公開／非公開	公開
傍聴者	２人
その他	なし

【議事要旨】

	１．開会 （事務局） ・吉村市長より挨拶 **２．委員および事務局自己紹介** （各委員および事務局） ・配布資料確認 **３．会長および副会長選出** 会長⇒井上委員、副会長⇒恒川委員 ・井上会長挨拶 ・会議成立要件の確認 （委員 18 名中、過半数を超える 14 名が出席のため成立） **４．会議の公開および会議記録の作成について** ・会議は、引き続き原則公開とする。 ・会議記録についても、引き続き要旨記録として作成し、市ウェブサイト等で公開する。 **５．案件** **（１）第２期富田林市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況等について**
事務局	●資料４－１～３「教育・保育の量の見込みと確保方策（提供量）に対する実績など」、資料５「地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策（提供量）に対する実績など」、資料６「その他子育て支援事業等の利用状況」の説明 （説明省略）
会長	◇事務局から説明のあった内容について、委員の皆さんの質問や意見をうかがう。
委員	◇資料５の令和４年度のショートステイの利用人数が大幅に増えている理由は何か。また、トワイライトステイの利用が全くないのはなぜか。
事務局	●ショートステイとトワイライトステイは、利用時間等によって分けているが、トワイライトステイに関しては、その時間帯にあう利用者がないので０人となっている。ショートステイについては、夜間放置の危険性に加え経済不安がある家庭の対応として継続支援したことにより増加となった。レスパイトや出産、疾病等で緊急一時的に利用する方が多く、また、一時的に避難するための受け皿としての利用もある。
委員	◇一時的な避難とは子どもはショートステイの施設で、保護者は別の施設に避難するという理解で良いか。
事務局	●利用の仕方として、子どもだけで利用する場合と、子どもと保護者が一緒に利用する場合もある。
委員	◇一時預かりのお試しチケットの配布は令和４年度からの実施であったかと思うが、実績がそこまで増えていないのは、利用したい人が利用できなかった

	と考えて良いか。
事務局	●令和４年８月から実施している。令和４年度の利用者は３５８人であり、チケットを配布した数はもう少し多い。チケットの利用は３歳の誕生日を迎えるまでとなっているため、もうすぐ３歳になる児童については利用できる期間が短く駆け込みでの利用となったことから、当初は０～２歳が一斉に利用される場面もあったかもしれないが、今は落ち着いている。
事務局	●資料７「第３期富田林市子ども・子育て支援事業計画の策定について」の説明 （説明省略）
会長	◇事務局から説明のあった内容について、委員の皆さんの質問や意見をうかがう。 （意見等なし）
	６．その他
事務局	●富田林版「こどもまんなか社会」について（参考資料１） （説明省略）
事務局	●富田林市立幼稚園・保育所のあり方の経過報告について （説明省略）
事務局	●幼保連携型認定こども園の開設について （説明省略）
会長	◇事務局から説明のあった内容について、委員の皆さんの質問や意見をうかがう。
委員	◇だれでも通園制度について、０～２歳児の在宅で子育てされている方が月１０時間利用できるという制度だと思うが、受け皿は確保されているのか。
事務局	●本市の認可保育施設でいうと、通常保育で０～２歳児に受け皿となるゆとりはない。一時預かりの部屋や通常の保育以外のスペースがある施設での実施を検討している。また、利用時間等についても、どのような形で提供していくことが育児をしている方のサポートにつながるのかも含めて検討している。
委員	◇一時預かり事業を実施している施設を想定されているとのことだが、国では、幼稚園、こども園、地域子育て支援拠点施設も含まれている。地域子育て支援拠点施設では、一時預かり事業を加算事業として実施はしていないので、想定されている施設には属さないかもしれないが、地域の無認可の保育施設等も含め、地域資源を漏れなく活用するような柔軟な仕組みづくりにしていただきたい。
委員	◇今までの実績を見ていると、需要が多く供給が足りてないのが０～２歳、需要が少なく供給が多すぎるのが３～５歳である。ここの部分を市全体としてうまくバランスを取ることができないか。特に公立保育所の力を借りて、０～２歳の受け入れを増やしていただき、３～５歳は公立幼稚園、私学幼稚園の受け

	入れを増やすといった公立私立を超えて年齢ごとに連携をとるような柔軟な組織づくりをしていただきたい。そのようなことが可能かどうか分からないが、これからニーズ調査の実施に進んでいくという段階であるため、ぜひ検討していただきたい。
事務局	●ご意見も参考にしながら、今後の施策を進める部分において検討していく。公立保育所の受け皿を広げていくという部分については、すでに民営化の基本方針が策定されて決まっており、方向性としては、公立保育所では保育の受け皿拡充については基本的には考えておらず、民間の保育施設の誘致によって確保をしていきたいと考えている。その中で３～５歳児の部分についても、市としてどのようにしていく必要があるのかを検討していく。
会長	◇他に質問や意見はないか （意見なし）
会長	◇本日の案件については、以上とする。
事務局	●次回の会議は、案件２で説明した第３期富田林市子ども子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の実施について調査項目の審議をしていただく。具体的な日程等については、１月末から２月初旬の開催を予定しているが、会長とも相談しながら時期が来たら案内する。 ７．閉会 （事務局） ・子育て福祉部付部長兼こども未来室長より挨拶 以上